

なお、質問事項はあらかじめ通知されておりますので、簡潔に発言されるようご協力をお願いいたします。

---

◇ 瀧野良枝

○議長（清水満） 発言順位6番、議席番号5番、瀧野良枝議員を指名します。瀧野良枝議員。

〔5番 瀧野良枝 登壇〕

○5番（瀧野良枝） 5番、瀧野良枝です。通告のとおり順次質問をしてまいります。

はじめに飯綱町コミュニティスクールの現状についてお尋ねいたします。

第2次飯綱町総合計画では、豊富な知識、経験、特技を持った地域の方々と学校を結び付け、地域の方々に体験学習などの支援をしていただくシステムを構築し、飯綱町ならではの地域密着型の教育を目指すこととしています。

また、小学校統合検討委員会の報告書によりますと、目指す子どもたちの姿として、激変する時代の中で自立して生きる力、グローバル社会に対応するコミュニケーション能力と想像力、郷土に誇りを持ち、地域社会の発展を担う力を養うこととしています。ポイントとしては、子どもたちの生きる力、そしてコミュニケーション能力、地域社会の発展を担うという点ではないかと思えます。

そのための新たな施策として、地域と学校の連携で地域を動かす取組の中で、子どもたちの豊かな成長のため、学校、家庭、地域が連携共同し、一体となって子どもたちを育む。地域と共にある学校づくりが求められている飯綱町においては、飯綱町版コミュニティスクールの構築を進めること。また、学校は地域の避難場所となっており、安全で安心できる場所であるとともに地域の礎でもある。公開講座などの開催の場や子どもとの交流を通して、大人も新たな発見ができる大人の学び場としても機能させる、地域共同型の学校づくりを進めるとありまして、以前からの教育ファーム授業などの取組をベースとして、2小学校、1中学校を一体的に支援する仕組みを充実させるため、おらほの学校、飯綱町版コミュニティスクールを構築し、みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ仕組みを飯綱町として研究していく必要があると

し、体験型学習を重視したキャリア教育をカリキュラムとして、地域密着型の学校を目指していくとの報告がありました。そして、本年4月から飯綱町内の小中学校は、飯綱町コミュニティスクールとして開校されました。

報告書で示されているように、住民みんなで子どもを育てていくということがより踏み込んだかたちになっており、そのためには学校と地域を繋ぐトータルコーディネーターの役割はかなり重要であると考えますが、現在、その選任はどのようになっておりますでしょうか。お答えください。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） ご質問ありがとうございます。瀧野議員のご質問にお答えします。

今現在、飯綱町のコミュニティスクールが正にスタートしました。つい先日、2つの小学校、それから中学校で飯綱町コミュニティスクールとしての第1回目の運営委員会が行われました。そこで各委員と同時にトータルコーディネーターも委嘱いたしました。

そして、本町の場合は、実は統合準備の時から、他市町村には無い制度ですけれども、教育専門指導員として小林先生をお招きして、準備段階から活躍していただいたわけですけれども、今回、その教育専門指導員をトータルコーディネーターとして兼任していただいております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） ただいま、トータルコーディネーターとして教育専門指導員の小林先生を委嘱されたということでございますが、文部科学省によって推進されてきたコミュニティスクールですが、長野県においては特に信州型コミュニティスクールとして、地域住民が学校運営の参画、学校支援、学校評価を一体的、そして持続的に実施していく仕組みを整え、学校と地域住民の共同による地域に開かれた信頼される学校づくりを進めるということで、地域の皆さんに日常的に学校に来ていただいて、子どもたちのことを支援していただいたり、また子どもの教育や学校運営について話し合うなど、学校と地域がこのような子どもを育てたいという願いを共有しながら、一体となって子どもを育てる持続可能な仕組みを持った、地域と共にある

学校であるとしています。

そこでお聞きいたします。飯綱町コミュニティスクールでは、どのような効果を見込んでおられますでしょうか。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） お答えします。ただいま議員からご質問がありましたように、飯綱町コミュニティスクールは、この信州型コミュニティスクールの理念を踏襲しております。

その第1として学校運営参画、それから第2として学校支援、第3として学校評価、この3つを活動の中に取り入れているわけですが、実はこれらは既に昨年度までも各小中学校で行っておりました。ただ、こういう地域に根付いた学校運営というものは、今まではそれぞれの学校単位で行われていました。それが、今年度からコミュニティスクールとしてトータルコーディネーターを配置したことにより、トータルコーディネーターが中学校、それから2つの小学校を全部統括してコーディネートしています。

ですから、例えば運営委員会も今までは各学校の校長先生、教頭先生が中心になって開催していましたが、今は3つの学校の運営委員会を全部トータルコーディネーターが取り仕切って、連絡などを出して、また運営計画なども立てて行っています。

それから、地域の人に地域講師とか、ボランティアとか、学校見守り隊とか、瀧野議員にも見守り隊で参加していただいて本当に感謝しているわけですが、そういう活動もトータルコーディネーターが中心になって全部調整を行っています。そういう意味では、今まで学校独自でやっていたものが、小学校、中学校と連携して、全体の流れの中でスムーズに行うことができるようになりました。

また、学校支援体制もトータルコーディネーターが直接地域講師の人たちをお願いしたりするので、例えば今まで学校独自にやっていた場合、先生が転勤してしまうと、そこでそれまでの繋がりが切れてしまうことがあったわけですが、これからはコーディネーターが前年度のものを繋げるかたちでやっていくことが可能になりました。

それから、学校評価についてh、地域の方が学校をいろいろ見てくださいますが、そういう時もトータルコーディネーターが学校のいろいろな情報を、地域の方にお便りや直接出向いてお知らせすることができるようになり、総合的な評価を受けられるのではないかと考えています。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 飯綱町においてはまだスタートしたばかりということで、正にこれから地域総掛かりで学校をデザインしていくという状況にあるかと思いますが、教職員はもとより、保護者、地域住民のコミュニティスクールへの深い理解と、そして積極的な関わりがかなり重要であると考えますが、そのコミュニティスクールの理念の周知並びにボランティアなど、協力依頼というのはどのように行われたのでしょうか。また、児童、生徒には改めて説明がなされたのでしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。周知ということでございますけれども、教職員、あるいは保護者につきましては、統合準備委員会からの関連で統合だよりを通じて周知をしてまいりました。子どもたちには、昨年の交流活動、小学校につきましては統合がありましたので、その際の交流活動を通しまして、統合後の学習で段階的に周知をしてまいりました。

コミュニティスクールにつきましては、今年度発足したばかりでございますので、組織や理念はできておりますけれども、まだまだ住民の皆さんにしっかりと周知をできているという状況ではございませんので、今年度1年間を掛けまして理解を深めいただくように、広報、あるいはホームページの利用、あるいは直接説明会を開催するなどして周知したいと思っております。

また、子どもたちにつきましては、授業、あるいは総合学習を通しまして、地域について学ぶ大切さを伝えていきたいと思っております。特に中学生の生徒の皆さんには、まだ周知がされていけませんので、こちらも周知をしてまいりたいと思っております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） これから周知に努めていくということでございますが、学校ボランティアという面で、子どもの安全、安心、安全な通学の確保のための、先ほどお話に出ました子ども安全見守り隊の現在の状況、また以前からあります子どもを守る安心の家というのは、現在、町内に何軒あるか、お答えをお願いいたします。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。安全の見守り隊の人数でございますけれども、牟礼地区で10名、三水地区で5名でございます。まだまだ募集をしてみたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それから安心の家の数でございます。牟礼地区で27軒、三水地区で28軒、計55軒で、今お願ひをしている状況でございます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 子ども安全見守り隊についてですが、今般募集が全町に向けて行われていたかと思いますが、それ以外の学校ボランティアの募集というのは、全町に向けてなされたのでしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） ボランティアの募集でございますけれども、今のところは議員が申されたとおり、安全見守り隊のボランティア募集のみでございます。ただし、コミュニティスクールの中では、おらほの学校応援団ということで、その中では地域の方々にボランティアとして携わっていただいておりますので、改めて募集を掛けていない状況でございます。

おらほの学校応援団につきましては、授業の関係、あるいは読み聞かせ、あるいはふるさと学習のボランティア、それと安全見守り隊等々、おらほの学校応援団に加わっていただいておりますので、これからはボランティアさんが必要であれば、募集をしてみたいと考えて

おります。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） おらほの学校応援団の中で、ボランティア的な活動をしていただいているということですが、長野市内のある学校では、地域向けに学校ボランティアの募集を行い、ある専門系の仕事をしている方が、ご自身の仕事のない日にボランティアで指導の補助に入ってくださっているという活動もしているようです。

今までも教育側の事業等、いろいろボランティアの方に活動していただいておりますが、もしかすると少し一定の団体の方、一定のグループの方をお願いしているところが多いのかなと感じておりますが、今後、どのような方たちが、どのように関わっていけるのかという可能性を広げながら、関わる人を増やしていくということが大切であるかと思えます。

また、ある地域では、そこにいっただけ防犯という取組もなされています。お年寄りなどが自宅の前に見守りベンチを置いて、座って子どもたちを見守るという活動です。都市部においては犯罪抑制の意味合いが大きいかと思えますが、飯綱町においては、最近お子さんの通学路の安全対策を心配されている保護者の方も多くいらっしゃいます。見守り者の安全確保というのがもちろん絶対条件です。見守りの方が安全に見ていただくというのが絶対なわけですが、見守りベンチで見守っていただくことにより、通勤時間帯の車の走行への注意喚起などの効果にもなるかと思えます。また、毎日声を掛け、あいさつを交わすことでの心の繋がりというものも大切にしていきたいところではないかと思えます。

そして、続いて小学校の設備面ですが、牟礼小学校の中には地域交流室があってお茶の道具などが用意されていて、とてもオープンな印象になっています。三水小学校には同様の部屋はなかったように思いますが、その違いはどのようなことでしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。地域交流室でございますけれども、確かに牟礼小には空き教室がございますので、そちらでお茶を用意しておきまして、地域の方々と関わっ

ていただいているということで、4月、5月ですと、毎週月曜日、金曜日にお話しの会でご利用いただいたり、あるいは歴史学習で講師先生と懇談会をしたりということで様々に利用されております。

三水小学校につきましては、ご存知のとおり空き教室が無い状態でございます。地域交流室につきましては、やはり1階の玄関から入ったところがベターかと思っております。三水小学校につきましては今のところございませんが、学校と相談しましたところ、ランチルームが空いておりますので、そちらを利用していただいたり、あるいは少人数でしたら校長室で校長先生、あるいは教頭先生と懇談をしていただくというようなことでの活用を今のところさせていただけたらと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 三水小学校においては、地域交流室という名前がないということで、是非、地域の皆さんに向けてのPR、開かれた学校、立ち寄りやすい学校というPRをしていただきたいと思っております。

特に心配されますのが、例えば牟礼西地区、赤東区の地域の皆さんが、物理的には旧牟礼東小学校、旧三水第一小学校の建物である新しい学校を、おらほの学校だと言って愛着を持っていただけるかという点においては、本当により学校に顔を出していただける機会を増やすことが大切かと思えます。どんなきっかけが良いのかというのは今後の検討事項かと思えますが、少なくともご自身のお子さんが行っていればもちろんですが、お孫さんとか、近所のお子さんが通っているということが、親しく感じていただける1番のきっかけにはなるかと思えますので、積極的に巻き込んでいく仕掛けづくりというものが必要になるかと思えます。

また、地域住民との関わりにおいて、小中学校を通して継続性のあるエスカレーションの取組もより必要ではないかと思えます。先ほどトータルコーディネーターによって小中学校と一体的に取り組んでいけるというお話も聞きましたが、平成29年度までは町内小学校4校、それぞれの取組にやはりばらつきもありました。地域の事情もあり、ばらつきもありました。

また、中学校では、主にキャリア教育に地域の力を発揮することが重視されていますが、小

学校から継続した9年間を通してのカリキュラムマネジメントも必要ではないかと思ます。

ちなみに先日、私は三水小学校での田植授業の活動に参加してまいりましたが、田植をお手伝いいただいたボランティアの皆さんが、おやつにきなこ、外にきなこがまぶしてあって中にお漬物が入っているおにぎり、干し大根の煮物を持ってきてくださいました。その時に知りましたが、実はその児童たちが、1年前にそのボランティアの方たちと一緒に干し大根を作った、その干し大根を煮て持ってきてくださったということで、本当に子どもたちにとっては特別な味だったようで、とても喜んでいました。そのボランティアの皆さんが児童の名前を呼んでくださる。児童の名前を呼べる関係性、継続して関わっていくということの大切さを感じました。

また、私自身キャリア教育の一環で、飯綱中学校の授業に参加をいたしました。実感として感じましたのが、やはり中学生という年代的な問題なのか、突然やってきた大人との関わりになかなか打ち解けられない様子の生徒もいました。お互いに心を開いてよりよい情報交換をするためには、関わり方の連続性が大切だと痛感いたしました。今後は給食の時間などにお邪魔をして、関係性を築いていくというご提案がありましたが、とても大切な取組だと思っています。カリキュラム内容の継続性、そして関わる人の連続性、どちらも大切だとは思いますが、これについてはいかがでしょうか。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） 瀧野議員のおっしゃるとおりで、まるで教育長の答弁を聞いているかのようで、すっきりとまとめていただいて本当にありがとうございます。

本当に瀧野議員のおっしゃるとおりで、実は今、瀧野議員がおっしゃった田植の時のおやつですけれども、段取りの会の方が運営委員にも参加してくださっていて、その運営委員会が終わった後で、「子どもたちが去年作って学校に保管しておいた干し大根、教育長、これだけとれた」と見せてくださいました。そして、「今度、田植があるからこれをおやつにするので今日持って帰る」と。そうやって学年を超えてもずっと継続して繋がっている。これが、地域に根付



いた正にコミュニティスクールだと思いました。地域の方がそれを生きがいにして、本当にやりがいにしてやってくださっている。本当に頭が下がる。これが飯綱町の良さだと思いました。これを大事にしていきたいと思いを新たにしたところであります。

また、今、飯綱町の課題として取り組んでいるのは、そうやって地域の方がどんどん入ってきてくださる。地域の方に支えられている。今度はギブアンドテイクですよね。それを子どもたちがどう地域に返していくか。

例えば、先ほど見守り隊で地域の方がそこにいるだけ防犯という話をしてくださいましたけれど、飯綱町でも、例えば田んぼや畑にいて仕事をしてもらっていいわけですが、そこに子どもが通り掛かったら、少し立ち上がって子どもの方に視線を向けてくれるだけでもいいわけです。庭で草取りしていて、子どもが来たら、「おかえり」、「おはよう」と言ってくたださるだけでもいいとお願いをしています。そうやって地域の方に関わってもらっていることに対して、どう子どもたちがそれに返していくかということです。

これは中学校の例ですけれど、今、中学校には地区生徒会というものがある、活動が少し形骸化しつつある。そこで、今度は子どもたち、自分たちが地域に入って、地域の方と触れ合う機会を作っていこうという生徒会の活動を計画しています。

また、これは教育委員会だけではなくて、今、中学校はキャリア教育の一環として、企画課とも連携する中で株式会社を作って、7月に教育委員会が主催する i ママフェスタが第二小学校跡地であるわけですが、そこに店を出してくれる。そのようなかたちで今、子どもたちも地域に発信して自分たちも関わりを持っていく。そういった活動を小学校でも進めて、もっと子どもたちから発信する、そういう本当に地域との繋がりが交互になされるようなことがやっていけるように頑張っていきたいと思えます。応援よろしくをお願いします。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） ただいま前向きな答弁をいただきましたが、平成29年度実施の全国学力学習状況調査のクロス集計によりますと、地域や社会を良くするために何をすべきかを考えさせるような指導を行ったかという設問で、全く参加してくれないという学校より、よく参加して

くれるという学校の平均正答率が最高で4.8ポイント上回っているという結果が出ています。

また、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行ったかの設問では、最高で3.7ポイントの差。PTAや地域の人が学校の諸活動、美化ですとか、見守り、学校行事の支援にボランティアとして参加してくれているかという設問では、最高3.7ポイント。地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったかの設問では、最高で3.3ポイント点数が上回っているという結果が出ています。

学力調査に関しては、いろいろな要素が複雑に絡み合っているのだとは思いますが、クロス集計によると、地域や保護者と学校との関わりが強い設問で、全ての数値が平均点を上回っているということを見ましても、これについては、飯綱町でも平成29年度の同調査の結果が公表されております。この結果を踏まえて今後の参考にしていただければと思います。

コミュニティスクールにおいては、しっかり熟慮して議論する熟議、協働、マネジメントが大切だと言われております。保護者、学校、地域、多くの当事者が集まって、課題について学習、熟慮し、議論をすることにより、互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、個々人が納得して自分の役割を果たすようになることが大切だと言われております。

私自身、住民の皆さんとの意見交換会を通して、住民の皆さんは現状でご自身が置かれている立場でのお困りごとの意見もありますが、まずは若い世代が、子どもたちの未来がと心配されている意見が多いと感じています。

生活上の課題に関する興味であるとか関心はそれぞれ多種多様で、多くの人たちが共通して関心を持つ地域の課題というのがなかなか見いだせなくなっている昨今ですが、そうした中でも子どもの成長というテーマは、比較的多くの地域住民にとって共有しやすいテーマであり、子どものためなら協力する、子どもたちに何とかしてあげたいと思っている人たちは少なくないのではないのでしょうか。

地域においては、子どもの成長を通して町の将来に関わり続けていくこと。また、保護者においては、自身の子どもが学校に通っている時はもちろんのこと、子どもが卒業しても先輩保

護者として継続的に関わり続けていくこと。また、児童、生徒においては、先ほど地域へ今度は発信していくことが大切だというお話がありましたが、コミュニティスクールにおいて多様な人との関わりを通して身に付けた生きる力、コミュニケーション能力、地域の担い手としての力も、卒業後も今度は先輩として後輩に伝え続けていくなど、学校を核として三者一体、四者一体での取組による可能性は、無限大に広がるものと考えます。今後もさらなる前進を期待いたします。

それでは次の質問にまいります。続いて飯綱町ワークセンターについてお尋ねいたします。

第2次飯綱町総合計画の基本構想のテーマの1つである日本一女性が住みたくなる町を目指して、職業生活と家庭生活の両立に向けた子育て支援環境の整備、自らの希望により働き、また働こうとする全ての女性を応援するとしています。

また、子育て、子育ての方針として、女性の希望がかなう子育て環境づくりの中で、就職に有利な資格や知識、能力を身に付けられる研修会の開催など、女性の職場復帰や再就職支援の充実を図るという方針を打ち出しています。

また、飯綱町まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、女性の希望をかなえる町というテーマの下、女性就業率の目標値を平成31年度には60パーセントとしています。そして、子育てと両立する働き方改革事業の一環として、長時間勤務が困難なママたちが、在宅ワークに安心して取り組める環境整備、企業側の求人や働きたい方の就労に関する相談、情報交換ができる場を提供することを目的に昨年5月、飯綱町ワークセンターが開設されました。

そこでお尋ねいたします。ワークセンター開設から1年、具体的な成果と見えてきた課題についてお願いします。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。おっしゃるとおり、ワークセンターは1年が経過しました。この間でございますけれども、各種セミナー、あるいはママたちのネットワークづくり、またマッチングイベント、それからiママフェスタなどを通じて、利用者、あるいは

企業の皆様より、大変好評を得ていると感じてございます。

現在までは、42名の方がワークセンターに登録をされておりまして、平均毎日4人以上の方が利用をされている状況でございます。また、ワークセンターの中には託児室も設けてございますので、そこでは1日平均3人ぐらいが利用をされております。

このセミナーにつきましては、10名ということでは毎回行っているわけですが、すぐに定員が満杯になってしまうということで、大変好評を得ております。

現在、ワークセンターにつきましては、子育て中の女性の就労への復帰のための必要な準備期間として、支援を目的に1年間運営してまいりました。復職への不安、あるいは悩みを持つ方が少しでも安心して復職ができるようにということで、背中を少し押してあげるようなことで、ワークセンターを現在のところは運営しております。一定の成果を得ているということは、やはり良い結果であったと考えております。

また、課題でございますけれども、どんな求職者がいるのかを多くの企業に知ってもらう有効な手段をこれから考えていきたいと思っております。また、現在はパソコン業務でのワークセンターをお願いをしているわけですが、手仕事、いわゆる昔で言う内職的なことを希望する利用者も増えてきてございます。さらには、将来的に利用者が自主的にこのワークセンターを運営していけるような仕組みづくりができないかという、この3つが、1年間やってきた課題と考えております。以上です。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） ただいまセミナーについてのご紹介がありましたが、現在まで実施されたセミナーは各回定員10名から15名ということで、これまではパソコン講座、ライティング講座、Webライティング講座など、1年間で12回のセミナーが開催されました。

中でも、当時の地域おこし協力隊員を講師として開催した、稼ぐ力を身に付けるスキルアップセミナーについては大変好評で、その後、ママさんたちが自主的に講師を呼んで継続的に学ばれたと聞いておりますが、その他の講座について、研修の成果並びに受講者の満足度についてのアンケートなどの実施がございましたらお答えください。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） それぞれのセミナー研修会でアンケートをとってございます。おっしゃるとおり、12回の講座で四十数名ほどに受講いただきました。アンケートにつきましては、皆さんにアンケートをお願いしましたが、実質36名の方にお答えをいただきました。

年代別では、20代の方が8名、それから30代の方がやはり多くて22名、40代が4名、また50代が1名ということで、年齢をお書きいただかなかった方がお一人いますけれども、36名の方からアンケートをいただいております。

講座を受けてみての感想でございますけれども、大変満足したが12名、やや満足が19名ということで、合わせまして31名で、約86パーセントの方が満足をされており、大変好評を得ている状況でございます。また、研修、あるいはセミナーの内容につきまして、分かりやすかったですかとお聞きしましたところ、そう思うということで34名の方が良かったとお答えをいただいております。また、各講座セミナーによりましては、細かなアンケートもさせていただいておりますけれども、それは今後のセミナー、あるいは研修会の参考にさせていただきたいと思っております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） ただいまアンケート実施の結果、満足度が高いという評価でございましたが、実はワークセンターの開設から数か月後に、私が独自で聞き取り調査をしましたところ、紹介される在宅ワークの仕事の単価が1件数円で、数時間しか働けない日はワークセンターまでのガソリン代にもならないとおっしゃっている方がいました。これはお一人の意見ではなくて複数人です。それ以降、ママさんたちのそういったスキルアップの研修を数多く開催されて満足度も高いということですので、現在はそういった状況ではないかと思っておりますが、実際にこの研修を受講することによって、例えば、在宅ワークをしている方の仕事の単価というのは上がっているとお考えでしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） 確かに開設したばかりのワークセンターでの仕事についてお聞きしますと、例えばブログチェックで1チェックしたところ2円というようなことをお聞きしてございます。時間ばかり掛かって収入が得られないということをお聞きしました。

ただ、現在は町がテープ起こし等の委託をしております、単価は確実にアップしていると思っております。ちなみに町からのテープ起こしの委託につきましては、1分230円の単価でお願いをしております。ですので、1時間半の会議を行って、90分のテープ起こしをしますと、約20,700円の収入が得られるということで、単価につきましてはアップをしているという状況でございます。なお、このテープ起こしの単価につきましては、障がい者のテープ起こし等々を参考にして、決めさせていただいております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 1点確認ですが、テープ起こし1分230円ですが、これは実際にやったママさんたちに支払われる金額でしょうか。それとも委託業者に払われる金額でしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） 町からの委託ですので、本人に入ることです。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） ワークセンターの主な目的として、今まで実施したアンケートの中で要望の多かった在宅ワークの仕事の機会を創出するという面と、就職に有利な資格、知識、能力を身に付けて、女性の職場復帰、再就職支援の充実を図るという、2つのニーズを負っているかと思いますが、在宅ワークに関しては、より高度な作業をするためのスキルアップ研修の継続実施ということが必要になるかと思えます。そして、再就職支援という意味では、今後は別のアプローチも必要ではないかと考えます。

例えば、現在セミナーは無料で行われておりますが、再就職のためのセミナーでは多少の費用負担をしていただいても、より就職に有利な資格、手に職を付けるという研修も積極的に取

り入れていくということを考えてはどうかと考えます。

ママさんたちが自己投資をすることによって自信が付いて、また労働意欲も高まるという効果もあるのではないのでしょうか。どのような資格が求められているかというのは調査が必要かと思いますが、例えば介護系の資格や経理の資格、その他の事務系の資格など、民間の研修会社などと協力して、コラボレーションをしてワークセンター内で開催するというのも視野に入れてはいかかでしょうか。例え自己負担があったとしても、研修会場は町内であるということ、自宅から近いという利便性と、また託児、子どもを預けた際の費用が1日100円であるという安さを考えても十分にメリットがあるかと思います。ちなみに、ワークセンターでは1日100円で託児が受けられますが、これを町内の保育園で一時預かりをすると1日最大2,400円ですので、メリット感はあるかと思いますが、資格取得などを目指すセミナーの開催についてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。確かに現在ワークセンターでは、子育て中の女性の就労への復帰のための必要な準備期間ということで支援を行ってございます。1年間実施をしてみまして、先ほど申し上げました成果、あるいは課題が見えてまいりました。

議員おっしゃるとおり、就職に向けた、また再就職に向けたそういうセミナー等も料金を取る、取らないは別としましても、考えていきたいと思っております。

5月の求人を見ますと、32件の求人がきてございます。町内が多いですが、農業、あるいは事務系、接客業、またパソコン等々きておりますので、そこら辺も加味しながら今後考えていきたいと思っております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 在宅ワーク系の研修も、趣味教養程度に簡単なお知らせを作りたい人用のベーシックコースですとか、実質的に単価を上げたい人のプロフェッショナルコースなど、コース選択もできれば良いかと思います。

また、在宅ワークもレベルアップして、例えばより高度な編集や構成の技術を身に付けて、今、町のホームページなどでも進められております、ウェブライターとしてご活躍いただいたり、町の各種広報紙などの製作などでもママさんたちにご活躍いただければうれしく思います。

また、先ほどお話しましたように、ワークセンターでの託児は1日100円であるという安さと、予約なしで当日突然行って利用が可能であるという点において、当日のお子さんの状況や自分の都合で柔軟に利用できるのも、入園前のお子さんがいらっしゃるママさんたちには、大変有り難い、そして好評だとお聞きしておりますが、現在ワークセンターは飯綱町在住でなくても使えるということになっています。実際にこの1年間のワークスペースの利用者は合計708名でしたが、町内が594名、町外が114名ということで、全体の16パーセントが町外の利用者です。

ちなみに、ワークセンターの実質的な経費は、センター運営費で業者に委託している分が年間550万円、託児業務委託料が182万7,000円の予算で本年度は計上されております。年間にして732万7,000円。月平均61万円相当の支払があり、実際にはこれにパソコンの更新、各種イベントなどの経費がさらに上乗せで掛かっています。

これだけの費用、経費を掛けている中で、町外の利用者も受け入れるのではなくて、町内のママさんに限定してワークセンターの利用価値を高めた方が良いのではないかと思います、いかかでしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。確かに費用的な面、今、議員おっしゃられたとおりでございます。

当初、このワークセンターを開設する際、移住もありましたけれども、隣の信濃町さんとの連携を考えまして、信濃町さんのお母さん方が来ていただき、また信濃町の企業の皆さんが求人をしていただくということを考えて、町内に限らず、町外者もということでございます。ただ、蓋を開けてみましたら、町外の方、特に須坂市の方が多く、長野市、小布施町の方という



ことも聞いております。

ですが、子どもたちが減ってくる中で、このワークセンターをいかに利用してもらって、再就職、または在宅ワークでお母さん方が収入を得てもらおうかということ、またセミナーの受講者の皆さんがグループを作って、それで起業をしていただけないかなということもございます。

昨日の議員さんの質問の中で、元気づくり支援金を使って起業をされたというお母さん方のお話もありました。そういうこともできないかという狙いもございますので、今の時代でございます、1つの町でこれを行うというよりも、地域が連携して町外の方とのネットワークを作ったり、お母さん同士のネットワークを通じて飯綱町を知ってもらったり、飯綱町の産業、あるいは文化を知ってもらうことによりまして、第2次総合計画にあります、日本一女性が住みたくなる町に繋げていけたらということもございますので、今のところ、町内に限らずやっていきたいという思っております。

ちなみに、先日、小布施町の子育て支援センターに視察に行ってきました。あそこは登録が2,500人あるそうです。その中で6割が町外者で全て無料です。一部内容によっては材料費をいただくというようなことでもございましたけれど、2,500人の6割の方が町外から来られるということです。飯綱町の方も行っているというお話も聞きましたけれども、そんなようなことで連携をしながらやってきたいと思っています。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 連携を図るために、またママさんたちのグループづくりということで、町外者も受け入れているということでもございましたが、確かに小布施町は、かなり取組が全て有名になっていますので、いらっしゃる方も多いただろうと思っております。

ただ、飯綱町のワークセンターも今後ますます発展をして、大勢の方が使っていただけるようになった際に、現在の場合はパソコン仕事も定員10名だと思いますけれども、そんな時に町内の方が実は使えないということのないように、また考えていただければと思います。

そして、また再就職を支援するという意味では、保育園での一時預かりの料金体系も再考の必要があるのではないかと考えます。保護者が仕事や病気、冠婚葬祭などで一時的に家庭での

保育ができない場合に利用することができる一時預かりですが、現在、時間の区分が4時間までと、4時間から8時間までの2区分のみです。これをより柔軟に、利用しやすい1時間単位での単価にはできないでしょうか。

また、一時預かりの理由は様々でも、料金は全て一律になっています。例えば、面接や資格取得のためであれば、証明書類の提出により単価を安くすることは考えられないでしょうか。実際に昨年1年の町内保育園の一時保育の利用実績を見ますと、利用合計が328回、利用の理由別に見ますと、保護者のリフレッシュのためが82回、同年代のお子さんと遊ばせたいなどが83回、出産のためが79回、そして就労のためが75回、これらが主な理由です。ここでの保護者のリフレッシュのためという理由と、就労のためという理由では、かなり意味合いが違ってくるのではないかと思います。一時預かりということは、継続的な仕事ではなくて、単発の仕事をしているという可能性が高いのだと思いますが、今は理由としては上がってこない職業訓練や求職活動も再就職支援という意味では、バックアップする必要があるのではないのでしょうか。

先ほどお話ししたように、ワークセンターであればウェブを使って面接することもでき、セミナーの受講もできて、そしてお子さんは1日100円ということですので、保育園の一時預かりとの金額の差には確かに大きな隔たりがあります。利用時間の区分、また料金体系の差別化については、どのようにお考えでしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答え申し上げます。確かに一時保育とワークセンターの託児の料金は、おっしゃるとおりでございます。ただ、ワークセンターの託児につきましては、企業型の託児所的な意味合いで町は考えております。従いまして、ワークセンターで働いているお母さん方限定で、お子さんを預かっているというような状況ですので、お母さんがすぐ近くにいるという状況がございます。

また、一時保育につきましては、やはりこれは保育でございますので、託児とは意味合いが

少し違います。施設のにもまた変わってくるというようなことから、あるいは責任の度合いも違うというようなことから、一概に単価をどうするかというところは、今申し上げられませんが、これから研究をしてまいりたいと思っております。

一時保育の内容につきましては、今おっしゃられたとおりいろいろなことで一時保育をされるということがございますので、就労がいいのかどうなのかというところは、少し研究をさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 他の自治体でも理由別によって料金体系を変えているところもございまして、ご検討いただければと思います。また、子育て支援の一環としても、保護者が病気の際の料金についても、後々考えていただければと思っております。

ワークセンター開設の際には、平成28年6月に行われましたアンケート結果を基に方針が決定されました。2年を経過した現在、アンケートに回答した保護者の皆さんもお子さんの成長に合わせて置かれている状況も変化しておりますし、新たに該当する保護者の方もいらっしゃいますので、要望、ニーズの変化がある可能性もあります。最新のニーズに応えるべく、継続的な調査が必要であるかと思いますが、次回のニーズ調査の予定はございますでしょうか。

○議長（清水満） 桜井教育次長。

〔教育次長 桜井俊次 登壇〕

○教育次長（桜井俊次） お答えします。ニーズ調査の関係でございまして、現在の子ども・子育て支援事業計画が平成31年度まで計画をされてございます。

平成32年から向こう5年間の計画を、これから準備を進めてまいるところでございまして、そのためのアンケートを来年度実施したいと思っております。それだけではございませんけれども、児童手当等の現況届等に併せまして、またスポット的にアンケートも実施してまいりたいと思っておりますが、大きなニーズ調査は来年度予定をしてみたいと思っております。

○議長（清水満） 瀧野議員。

○5番（瀧野良枝） 確かに今、現況届を提出する時期ではありますので、保護者の方と顔を合わせる機会が多いというところで、より多くの意見を吸い上げていただければと思います。

ワークセンターについては、多くの人から注目され、また期待されている存在でありますので、今後さらなる充実を進めていただきたいと思います。質問は以上でございます。

○議長（清水満） 瀧野議員、ご苦労様でした。

暫時休憩に入ります。再開は10時5分をお願いします。

休憩 午前 9時53分

再開 午前10時 5分

---

◇ 渡 邊 千賀雄

○議長（清水満） それでは休憩前に引き続き会議を再開します。一般質問を続けます。

発言順位7番、議席番号12番、渡邊千賀雄議員を指名します。渡邊千賀雄議員。

〔12番 渡邊千賀雄 登壇〕

○12番（渡邊千賀雄） 議席番号12番、渡邊千賀雄です。質問通告により順次質問いたします。

最初に、行政施策の進捗状況と併せて今後についてということでお伺いいたします。

1点目は、役場庁舎の建設についてお伺いいたします。町民の関心の高い案件であり、町としても合併後の大きな事業であり、自治行政の拠点としての庁舎建設であります。私も議会で度々取り上げてきました。1月末には基本設計を明らかにし、町民に説明していくとしておりましたが、実施になりませんでした。また、3月議会では再度、建設委員会に諮り、研究していきたいと表明しておられました。その後の研究の内容、そしてまた結果はどうなったかについて課長にお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） その後の研究結果はどうなったかということでございます。昨日の石川議員の質問にもございました。基本的に今あります現庁舎、それと隣にあります旧庁舎、これ